

# 家庭教育通信

10歳からの子育て  
～思春期の入口に立つわが子～ 12

第60号 平成30年3月11日発行

## 自己主張できない子

6年生を送る会で、クラス代表でメッセージを伝える係になりたかったのに手を挙げられなかったわが子。どうしていつもこうなんだろう

小学校の学校公開では、1年生の教室から「はい!」「はい!」「はい!」と背伸びして、周囲の子より先生に見やすいように挙手している子たちが目に入ります。反対に、高学年になるに従い、じれったさを感じるくらい挙手する子が減ってくる光景が見られます。幼いころは何でも自分が前に出なくては気がすまなかった子が、思春期に入る頃に消極的になってしまうことがあります。それは、成長の一過程、自己中心的だった子が自分を客観的に見ることができるようになったからです。成長の証でもあります。

「手を挙げてみようかな。でも、自分にできるかな。他の子もやりたいかな。」等々、学級内の空気を読み、考えすぎて手が挙げられないということもあるでしょう。自己主張できないのはいろいろ考えるからで、決して心が弱いからではありません。

### 家庭でも後押しを

挙手できるかどうかは、その集団のもつ雰囲気が大きく影響します。学校では、誰もが安心して自分を表現できる学級づくりに努力していますが、十分とは言えない場合もあります。そこでおうちの方の出番です。

- ①事前にお子さんの気持ちを担任の先生に伝えておくのも一つの方法です。もちろん、いつも希望が叶うとは限りませんが、その子の性格を考えて、そっと後押ししてもらえることもあります。
- ②ご家庭で、お子さんに「ダメもとで手を挙げてみようよ。〇〇ならできそうだよ」と励まして学校に送り出しましょう。挑戦する心を家族みんなで応援していることを伝えるのです。
- ③もし、今回はうまくいかなかったとしても、挙手できた事実を認めて価値付け、次のチャンスへの希望をつなぐよう励ましましょう。一度のチャレンジがうまくいかなかったとしても、すべて否定されたわけではありません。

こどもはいつも自信满满ではありません。様子をみて話を聞いてあげることが大切です。

庶務課社会教育担当

TEL (3647) 9676